

■棟方志功 版画家。民芸運動と接して独自の板画の世界を拓き、〈敗戦〉後に世界的な作家となった。

むなかたしこう

日比谷公園・1903＝ 青森市で、代々鍛冶職人の家に生まれる。15人兄弟の6番目であった。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

生まれつき極度の近眼であったが、信心深いお婆さん子で、お経に馴れ親しんで育つ。

明治天皇没・1912＝ 9歳：

民本主義・・・1916＝13歳：尋常小学校を卒業。

家業を手伝いながら、胤やネプタの武者絵に熱中するなど、絵が好きで、

大暴落・・・1920＝17歳：母が死去。鍛冶屋も廃業となり、青森地方裁判所の弁護士控え所の給仕として働き始め、

原敬首相暗殺1921＝18歳：仕事が終わると公園に行つて写生などするうち、ゴッホの絵を教えられて感銘、画家を志して、友人と洋画の会(青光画社)を結成。文学・演劇の会(貉の巣の会)もつくる。

護憲三派圧勝1924＝21歳：弁護士たちの助けで、絵を学ぶために上京。内職しながら油絵を帝展に出品するが落選がつづく。

治安維持法・1925＝22歳：父死去。川上澄生の版画に感銘、。

共産党事件・1928＝25歳：帝展に油絵「雑園」が初入選。帰郷。平塚運一を知り{版}の同人となって、木版画を始め、

海軍軍縮条約1930＝27歳：青森で赤木チヤと結婚、妻に生活を支えられ、国画会展で「貴女行路」などが入選後、

満州事変・・・1931＝28歳：*処女版画集「星座の花嫁」を刊行。神田で初個展。第一回日本版画協会展に「蟹集まる集まる」などを出品し、会員となり、以後、版画に専念。

五一五事件・1932＝29歳：家族も上京。国画会展で「亀田・長谷川邸の裏庭」などが入選し、奨励賞。

帝人疑獄事件1934＝31歳：堀口大学の「ヴェニウス生誕」の版画譜刊行。日本浪漫派の保田与重郎らとの交友が始まって、日本の情感、東洋的美に開眼して行くとともに、板の命を彫りおこす板画に打ち込み始め、油絵は完全に止めた。

芥川直木賞始1935＝32歳：国画会展に「萬葉譜」を出品し会友となる。

二二六事件・1936＝33歳：国画会展に「大和し美し」を出品して、民芸運動の柳宗悦、河井寛次郎らの知遇を得、「本当のものは個人を超えたところにある」ことを教えられ、

日中戦争始・1937＝34歳：釈迦如来を生き生きと描いた「華嚴譜」を初め一連の板画を発表。「空海頌」「東北経鬼門譜」、

健保+総動員 1938＝35歳：「観音経板画巻」。「善知鳥板画巻」が文展で特選となり。

第二次大戦始1939＝36歳：

大政翼賛会・1940＝37歳：「雨月物語」による「夢窓の鯉魚」。*続く傑作「釈迦十大弟子」と、人間本来の素朴な情念を、原始の呪術性、宗教性を、広大な宇宙観を、大画面の版画にダイナミックに表現、独自の世界を開く。

日米開戦・・・1941＝38歳：

・・・1942＝39歳：藤原伸二郎の詩による「崑崙頌」。随筆集「板散華」。「棟方志功画集」、

創価学会検挙1943＝40歳：「愛染経」。「神祭板画巻」が不敬を理由に撤去される。

年金+総武装 1944＝41歳：宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」をもとに制作。板画入り随筆集「板勁」、

敗戦・・・1945＝42歳：富山県福光町に疎開。空襲で東京の自宅が焼失、板木の殆どを失う。

新憲法公布・1946＝43歳：日展「愛染品板画巻」、戦後初の作品「鐘溪頌」(岡田賞)で、黒面に白線で人体を彫り出す技法が始まり、

極東裁判判決・1948＝45歳：国画会展に「釈迦十大弟子」を復刻して出品し、工芸部会員となる。

三大事件・・・1949＝46歳：「猫の足」、「女人観世音板画巻」では、エロティシズムと言える線にまでなっている。

朝鮮戦争始・1950＝47歳：普羅の俳句による「栖霞品」。「道祖土頌」、

独立回復・・・1951＝48歳：波郷の俳句による「胸形変板画冊」。疎開地富山から東京に戻ると、集中的に仕事を始め、

メーデー事件・1952＝49歳：スイスでの国際版画展で「女人観世音板画巻」が優秀賞。日本版画協会を脱会し、北川民次らと日本版画院を設立。第一回日本国際美術展に「いろは板画冊」「歓喜頌」など出品。

TV放送始・・・1953＝50歳：国画会展に「流離抄板画巻」を出品するが、閉会后脱会。日本国際美術展に「湧然する女者達々」など出品。

自衛隊発足・1954＝51歳：現代日本美術展に「宇宙頌」「耶蘇十二使徒板絵冊」、日展に「華狩頌」を出品。

55年体制始・1955＝52歳：「柳緑花紅頌」「かいこう板絵冊」。サンパウロ・ビエンナーレで「釈迦十大弟子」が最高賞。

国連加盟・・・1956＝53歳：谷崎潤一郎の「鍵」の挿絵を担当。「蒼原板壁画」「谷崎歌々板画冊」「茶韻十二ヵ月板画冊」。*「湧然する女者達々」が、ベネチア・ビエンナーレで称賛され、国際版画大賞になるなど、国際的にも高評価を得るに至る。

なべ底不況・1957＝54歳：柳宗悦の詞に「心偶頌」を制作して病を見舞う。第一回東京国際版画ビエンナーレに出品した「群生の柵」以降の作品は、明るさを増して、ピカソにも近いレベルのものになり、

インスタントメン・1958＝55歳：「龍原頌」。柳宗悦編「棟方志功板画」刊行。「海山の柵」、

美智子妃・・・1959＝56歳：渡米し、各地の大学で講義と個展を開催。ヨーロッパを廻って帰国。「摩奈那発門多に建立す」「ホイットマン詩集の柵」。第一回青森県文化賞。

安保闘争・・・1960＝57歳：版画集団「日版会」を結成。「鷲嘯の柵」、

タイタイ病始・1961＝58歳：「青森県庁舎の壁画「花矢の柵」と続くが、

TV宇宙中継始1963＝60歳：藍綬褒章を受章。「歓喜自板像」。「恐山の柵」では、優美な女性の姿が消える。

東京リビック 1964＝61歳：歌会始めに招かれる。自伝「板極道」刊行。「東海道棟方板画」。

大学紛争始・1965＝62歳：二度目の渡米。「朝日文化賞。紺綬褒章を受章

いざなぎ景気1966＝63歳：「乳願の柵」。草野心平の詩による「富嶽頌」。詩画集「富士山」。

全共闘ビーク 1969＝66歳：青森市名誉市民第一号となる。板芸40年を記念し「棟方志功板画大柵」。「東北風の柵」。

大阪万博・・・1970＝67歳：「大阪万博に、世界最大の版画「大世界の柵」を制作し、毎日芸術大賞。文化勲章を受け、文化功労者指定。

日中国交回復1972＝69歳：インド各地を旅行し、「彫濃の柵」などを制作。

石油ショック1973＝70歳：「板画と肉筆画が一体になった「奥海道棟方板画」を制作、

角栄金脈辞任1974＝71歳：アメリカ・カナダを旅行。「放送文化賞。鎌倉に「棟方板画館」開館。戦後の多くの題名に、巡礼が寺を回つて納める札を意味する「柵」がつけられてきたが、その語を持つ「捨身飼虎の柵」を最後に、

クアランゴール事件1975＝72歳：肝臓癌のため没した。青森市に「棟方志功記念館」開館。